



治水の先覚者
藤本太郎兵衛の像



中秋の候、皆様方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。滋賀県内の一級河川のうち滋賀県管理506河川(湖沼含む)、その内高島市内には57の河川があります。河川管理者である滋賀県として、中長期整備実施河川の検討結果が出ましたので、左記の通りご報告をさせていただきます。

河川名	概ねの流域面積 (km ²)	概ね今後整備を想定又は検討する区間		延長の目安 (km)
		起点	終点	
Aランク河川及び概ね今後20年間の整備を想定する区間				
鴨川	44.0	鴨、野田(中道橋)	野田、宮野	0.5
青井川	3.2	鴨(八田川合流部)	田中、三尾里	0.6
八田川	7.7	鴨(青井川合流部)	武曾横山、田中(八田川北流合流部)	1.7
Aランク河川(新規河川)及び今後整備を検討する概ねの区間				
安曇川	306.0	南船木	長尾	11.5
Bランク河川のうち現在事業実施中河川及び概ね今後20年間の整備を想定する区間				
石田川	59.7	福岡(バイパス付近)	梅原	1.7
百瀬川	12.9	沢(落差工)	沢(現川接続部)	0.6

Tランク河川(河川の形態から、破堤による人命への被害の影響が大きく、現状把握や対策の検討・実施・予算確保等を進める河川。「安曇川、安曇川北流、鴨川、八田川、百瀬川」)

私の信念は、「まっすぐに、ひたむきに」これまでも、これからも現場実現主義で行動してまいります。現場は末端ではなく先端です。現場が解決策を考え実践し、県民の皆様が喜ばれることを励みに頑張っております。皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

9月定例県議会

一般質問 鳥獣害対策について

ニホンジカの捕獲目標達成に向けた支援について、現状は、平成16年度末で県下での生息数は2万6,500頭と推定され、生息密度は、高島が17.4頭/kmと県下で一番多く、増加を抑えるだけでも年間約5,600頭の捕獲が必要で、生息数を半減させるための捕獲目標としては年間7,400頭とされており、仮に平成16年度の年間1,800頭の捕獲実績で放置すると、平成24年度には約14万頭の生息数に達すると推定されています。

琵琶湖環境部長(答弁にて)

- 一、狩猟者の皆様に対し、出来るだけメスのシカの捕獲の普及啓発に努める
- 二、個体数調整による捕獲は市町が行う捕獲に対して引き続き助成を行う
- 三、獣害対策の担い手の養成を進め、モニタリング情報の提供など必要な支援を進める

また、ニホンザルの個体数調整への取組および支援についても質問しました。引き続き、現状を改善できるように要望していきたくと思います。

がんばれ!

商店街、中小企業の皆様

第二弾

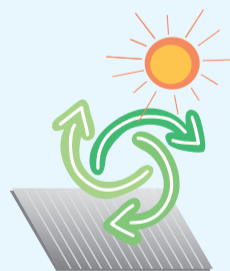
9月定例県議会において「原油・原材料高騰緊急対策資金」の創設が決まりました。この資金は、原油・原材料価格の高騰による影響を受け、資金繰りに支障が生じている中小企業や商店街の皆様に対して、借換を含む、低利で安定した資金を供給し、経営の安定を目的としています。貸付枠は新規枠で50億円、借換枠で160億円となっています。

いずれも保証協会保証付であり、融資対象者の条件もございまして、詳しくは、高島市商工会または滋賀県商工政策課までお問い合わせください。

トピックス① びわこねっと提案

原油価格の高騰を受けて、低炭素社会、循環型社会の構築を求める意見書を提案、可決!

昨今の原油価格の高騰、ならびにそれに伴う原材料価格の高騰は、あらゆる産業や一般家庭に多大な影響を与えております。こうした状況下、緊急対策が求められるわけですが、臨時的な対応にとどまらず、長期的視野に立ち、今後の原油価格の変動に対応できるように、低炭素社会、循環型社会の構築を目指すことを国に求める意見書を会派として提案、全会一致で可決されました。



トピックス② びわこねっと提案

造林公社の経営の健全化と公社営林の適正な管理のための支援を求める意見書を提案、可決!

滋賀県造林公社・びわ湖造林公社の旧農林漁業金融公庫(現日本政策金融公庫)に対する巨額債務については、県が免責的債務引受により、今後長期に渡り分割返済することが確定しました。しかし分収造林事業については、国策として、その制度上、構造上の問題もある為、わが会派は債務引受に伴う県の財政的負担の軽減を国に求める意見書を提案、全会一致で可決されました。



会派活動報告



第21回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク滋賀2008」総合開会式に出席(10月18日・希望が丘文化公園)

注目

造林公社債務 県が分割返済!

前号でお伝えした、9月8日に一括返済を迫られていた滋賀県・びわ湖西造林公社の巨額債務(約480億円)につきましては、県が「免責的債務引受」により、両公社の債務を肩代わりし、今後42年間分割返済することとなりました。

議会においては新たに「造林公社問題対策特別委員会」が設置され、これまでの公社経営の問題分析ならびに今後の経営改善について調査・研究することとなり、わが会派の角川議員が副委員長、清水議員が委員に就任致しました。

滋賀県議会難病対策 推進議員連盟発足

このほど、難病(特定疾患)患者の人権、生活、就学、就労の保障を求め、患者の福祉の増進に寄与する活動を総合的に推進することを目的として、滋賀県議会難病対策推進議員連盟が38名の議員参加により発足致しました。

わが会派も沢田代表をはじめ、5人全員が参加し、役員として、幹事に木沢議員、会計監査に清水議員がそれぞれ就任致しました。今後、右記活動を積極的に推進して参ります。

